

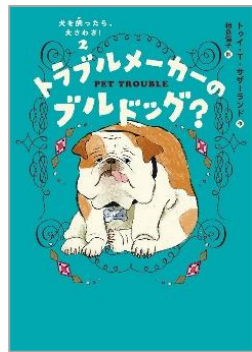
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

(高学年) 2025年 夏号



発行：時津町立時津図書館



「トラブルメーカーのブルドッグ？」
トゥイ・T・サザーランド/作 相良 倫子/訳
(徳間書店)

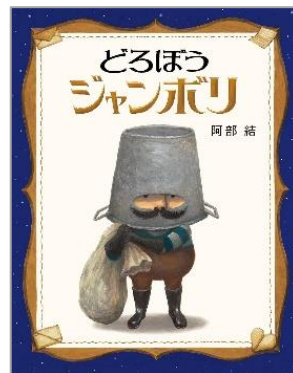
エリックはかっこいい犬が飼いたくてたま
りませんが、お母さんはなかなか犬を飼って
くれません。でもある日、お母さんが働く
動物病院の前にミートボールという名前のブ
ルドックが捨てられていたのです。トラ
ブルメーカーなミートボールとエリックの楽
しい物語です。

家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本に
ついて話す。これが「うちどく (家読)」です。
難しいルールは要りません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみま
しょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさん
やおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい
時間を過ごしましょう。



「どろぼうジャンボリ」
阿部 結/作
(ほるぷ出版)

バケツをかぶったジャンボリは、“てがみの
たね”をぬすむ変わった泥棒です。“てがみ
のたね”とは、書きまちがえたり、恥ずか
しくなってだすのをやめてゴミ箱に捨てら
れた、てがみのこと。でもある日、街から
てがみがきえてしまって、ジャンボリは大
あわて。可愛い泥棒ジャンボリの心があた
たまるお話です



「キリムの魔法のティーカップ」
桐山 エツコ/文・絵 ながわ よしこ/絵
(かもがわ出版)

インターナショナルスクールに通う 5人
が森の中で見つけた不思議なカフェ。ドア
には「キリムのカフェ」とかかれています。
おそろおそろ中に入ってみると、小さな男
の子がひとり、テーブルに座っていました。
そして、テーブルの上にはキリム柄のティ
ーカップが5個置いてありました。しかも、
5人が手に取ったカップの底には、それぞ
れの願い事が書かれてあったのです。



「なんとかなる本 樹本図書館のコトバ使い 4」
令丈 ヒロ子/著 浮雲 宇一/絵
(講談社)

こまった時、「なんとかして!」と強く思う
と突然現れる・樹木図書館。ここには、『なん
とかなる本』という本があって、図書館司書の
葉飛が呪文を唱えると、コトバの力で問題を
解決してくれます。
大人気シリーズの第4巻。今回は何をどの
ように解決するのでしょうか。



「10代から身につけたい「伝える力」」
池上 彰/著 くりた ゆき/マンガ
(PHP 研究所)

あなたが思っていること、感じていること
をきちんと相手に伝えられていますか? 時には、
そんなつもりで言ったんじゃないのに、
誤解されてトラブルになることもありますよ
ね。伝え方が上手だったら、こんなことには
ならなかったのにと、思ったことはありませんか?

この本を読んで、「伝える力」を身につけ
るために必要なことを詳しく学びましょう。



「ブルーラインから、はるか」
林 けんじろう/作 坂内 拓/絵
(講談社)

「もしひまだったら、僕の自由研究につき
あってほしいんだ」
図書館で出会った風馬に突然頼まれたコ
タは、風馬と一緒に自転車でしまなみ海道を
走ります。走っているうちに仲良くなってい
く二人は、それぞれが抱える悩みについても
知っていきます。